

組織部報

2016・12・14

国労東日本本部 組織部

国労加入を

大胆に訴えよう!

東労組の「スト権一票投票」に不満や脱退

JR東労組で12月31日まで全組合員を対象とした「ストライキ権確立の意思確認」投票を行っているようですが、伝え聞くところによると、賛成票を増やすためか「投票行為に役員が立ち会う。明らかに反対の者はあらかじめ投票から除外する。投票に迷っている人には〇（賛成）を書かせる」など管理投票が行われているらしい。

当然のこととして組合員の中から組合に対する違和感をもちます者もあり、さらには関東圏のある職場では、公然と分会として「ストライキ権確立に反対する」表明をしたり、脱退者も出ているという。

「脱退者が出ててもスト権投票」の先に見えるもの

スト権確立投票の目的として、大まかに以下3点が示されています。

- ① 『経営論理による「労働者意識の分断」を許さない』、所定昇給額に応じた「格差べア」反対、「安全再確立」
- ② 「会社は労使共同宣言を盾に組合弾圧、不誠実な姿勢がスト権議論をさせている」事に対し、労働者の権利を学び、春闘の武器として活用
- ③ 「会社は、労使交渉は行いが、合意形成はせず、組合要求は認めない」、世代交代の実現と「いつでも闘える組織」、「二人前の成熟した労働組合をめざす」

その目的達成のために、投票結果から次期中央委員会を臨時大会としスト権確立をはかり、36協定の期限切れ（1月末）に伴うJR東日本会社との攻防を経て、2017春闘における格差べア反対JR春闘の武器（ストライキ）という闘争スケジュールとなるのでしょうか。今、東労組の中では何が起きているのでしょうか？

私たち国労は、他の労働組合の活動や運動方針についてとやかく言うものではありません。とりわけ労働条件改善の最たるものである春闘における賃金改善の闘いは重要な闘いと位置付け取り組んで

います。

しかし、このスト権確立投票を巡って組織内部が混乱し、国労組合員に不満を漏らし、脱退者が始めているということは、明らかに東労組（組織運営のあり方）に対し不信感を抱いている組合員が多数存在していることを意味するものと考えます。

国労はぶじの労働組合です

国労とJR東日本会社は、平成18年の「係争事件の一括和解」以降は、現在まで職場の要求にもとづき、会社に要求し交渉を行っています。いわゆる争い事は一切ありません。

また、前述の「和解」以降、組合所属による差別解消に向け取り組んできた成果が試験や職場内に表れていると言えます。また、平成24年10月にはJR東日本会社と「労働条件に関する協約」の締結をはかり、労働条件改善に向けて取り組みを進めています。

JR東日本会社発展を支えるため、安

全・安定輸送確立と利用者サービスの向上をめざし、JR東日本会社と向き合い主張すべきことはしっかり主張し、労働組合としてチェック機能を働かせていくことが重要と考え活動しています。

職場の現状に目を背けず、労働組合の役割を發揮しよう

今、JR職場では年休もまともにとれない、臨月の女性社員であっても夜勤せざるを得ない状況、女性社員の活躍の場が広がる一方、設備拡充が後回しになっている現状。食事時間も満足に取れない、トイレも我慢して乗務せざるを得ない乗務員の実態など、JR東日本会社の進めてきた効率化施策の結果、JR本体、委託先を問わず職場は慢性的な要員不足の現状であり、技術継承や安全・安定輸送にまで、そのしわ寄せが及んでいます。

将来を担う人材の育成こそ重要

国労は、JR東日本を支える社員が愛着をもって仕事をし、安心で安全に働き続けるための環境整備や福利厚生充実の充

をはかるため、「労働条件に関する協約」改訂を通年の闘いと位置づけ取り組みの強化をはかっています。

とりわけ、今後JR東日本を担っていく青年部、女性部についても、職場に働く多くの青年、女性社員の声をとりまとめ、改善をはかるため本社交渉に反映しています。自らの口で会社に対し、考えを伝える事こそ重要です。これは、労働運動の継承にもつながると考えます。こうした青年部、女性部の独自交渉を行っているのは、私たち国労だけです。

気軽に国労へ相談を！

東労組組合員の皆さん！ 仕事や組合活動などで悩んでいたら、気軽に国労の先輩等に相談しましょう！
そして、今こそ国労加入を決断し、共に風通しの良い明るい職場を作っていきましょう！